

# 授業科目 相談援助論 II

【担当教員名】  鈴木 昭		対象学年	2	対象学科	社会
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	○	○	
【概要・一般目標：G10】 社会福祉士を含むソーシャルワーカーの役割を学び、ソーシャルワークの意義と機能について理解する。 相談援助を中心としたソーシャルワーク実践の概念や理念、範囲などについて理解する。 これらを通じて社会福祉士としての実践に必要な基本的な視点、考え方など実践基盤の習得を目指していく。					
【行動目標：SBO】 1 社会福祉士、精神保健福祉士などソーシャルワーカーの役割と専門性、その意義を理解する。 2 相談援助およびソーシャルワークの基本概念を理解する。 3 社会福祉士の実践領域・分野について概説できる。 4 ソーシャルワーク実践の社会的機能について知る。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	ソーシャルワーカーの仕事			第7章専門職倫理の概念	
2	ソーシャルワーカーの倫理綱領			第7章倫理綱領の意義と内容	
3	ソーシャルワーカーの悩み			第7章ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	
4	ソーシャルワーク実践の概要			第8章第1節	
5	ソーシャルワーク実践の基本的視座			第8章第2節	
6	ソーシャルワーク実践と地域			第8章第3節	
7	ソーシャルワーク実践の視座			第9章第1節	
8	ソーシャルワーク実践の基礎理論			第9章第2節	
9	相談援助の専門職			第10章 相談援助専門職の概念	
10	ソーシャルワークの実践分野と領域			第10章 相談援助専門職の範囲	
11	ソーシャルワークの実践機能1			第11章 概要	
12	ソーシャルワークの実践機能2			第11章 各種機能	
13	ソーシャルワークの実践			実践事例への理解	
14	ソーシャルワークの基礎			総括	
15	まとめ			重要事項の振り返り	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		6 相談援助の基盤と専門職 第2版	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2,600円+税・最新版
参考書		ソーシャルワーク実践の基礎理論 改訂版	北島英治 福田あけみ 他編	有斐閣	2010・2,000円+税
その他の資料		適宜配布する			
【評価方法】 レポート、定期試験に出席状況（出席率）を加味して評価する。			【履修上の留意点】		